

第 4 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 議事要旨

日 時	令和 3 年(2021 年)8 月 30 日 14 時 00 分～15 時 30 分
場 所	桜の馬場城彩苑 多目的交流施設
出席委員	別紙のとおり
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員紹介 ・欠席委員(柴田委員) 5. 会長選任 6. 会長挨拶 7. 議事 <ol style="list-style-type: none"> ①副会長選任
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 7. 議事 <ol style="list-style-type: none"> ②現計画の概要 ③計画中断に至る経緯 <p>【資料 1～10 ページに基づき説明】</p>
田中会長	街路樹にピンクテープが巻かれたことによって、現状が可視化されたことが大きく、これをきっかけに皆様から様々なご意見をいただいている現状である。
松本委員	以前の熊本市の説明では景観の連続性が著しく損なわれるようなことはしないとのことであったが、イチョウ並木などに著しく連続性が損なわれるようにピンクテープが巻かれている。これは樹木に欠陥や支障などの特段の問題があったためか。
事務局	令和 2 年度に課題があると判断した樹木の対応工事のための設計を実施し、伐採や更新などの対応基準に基づいて課題があると判断した樹木を示し、沿線の自治会や市民の意見を伺う予定としていたところである。
田中会長	では、ピンクテープを巻いているからといって切るわけではなく、そもそもなぜ巻いたのかがわかりにくいので、もう 1 度見直すということで宜しいか。
事務局	現計画を示したもので、見直しが必要かも含めて意見を伺うものです。
田中会長	なぜ巻いたのか、巻いたからといって切るわけではなく、場合によっては何本か切るなど、そういったことも含めて丁寧に議論し直そうというのが、先ほどの大西市長からもご説明していただきましたが、連続性に大きな景観の変化を伴うようなことはしないということで、今から皆様で考えていこうということですね。
事務局	そうしたところも含めて、これから市民の皆様や本委員会の皆様によって丁寧に議論させていただきたいと考えている。
沼田委員	今回、ピンクテープが巻かれた樹木については、課題の樹木に対して巻いたということだと認識しているが、具体的に伐採を目的としたもの以外でどのような課題に基づいて巻かれていたのかを明確にしなければ、市民の方々は

	「いきなりテープが巻かれた樹木全部が切られる」という認識になられたのだから、そのあたりのことをしっかり明確にして市民にお伝えてしていくことが必要である。
吉村副会長	以前に委員会が開催されていた時の街路樹の剪定の仕方と比べ、今回あたりから少し熊本市造園建設業協会の意識も変わってきている。電車通りの剪定の仕方を見ると、きれいな枝抜き剪定になっている。ただ、費用や労力、財政面が非常に懸念される中、 景観を適切に管理していくために協会だけではなく、市民や行政と一緒に議論を重ねていくことが大事 と考えている。
田中会長	放置すれば、街路樹は伸びて危険な状態になるため、剪定が必要となる。しかし、剪定するにはコストがかかるため、これをシステムとして持続可能な形にしなければならない。 適正な管理を行っていく上で、皆様でできること、できないこと、やったほうが良いことなどを考えながら議論するのが本委員会の役目 と考えている。
事務局	7. 議事 ④現状の課題 【資料 11 ページに基づき説明】
田中会長	ピンクテープが巻かれたことの意味を皆様で考えていく、 街路樹 1 本毎の対応を議論していくというのがこれからの課題 である。
福西委員	市民の方々は電車通りの景観が大好きということが今回の件でわかった。1歩ずつ丁寧な剪定というのは大事だと思うが、そうすると経費がかかると思う。 限られた予算の中で、市全体でどれだけのことが実施可能なのかを市民は知りたいのではないかなと思う。 また、来年春予定の都市緑化フェアの概要を見ると、大きな木は植えず、一年草・二年草の草花やあまり丈の高くない木をメインとした緑化となっているが、こうしたことを今後、街路樹も含めて緑の政策の根本にしたいのか、 それとも大きな木も植えていくのか、どちらの方向性を熊本市は考えているのかも市民は気になっていると思う。 周りからはやはり「あんなに木を切るのか、そんな寂しいことを委員会です承したのか」と言われ、安全性などを考慮した上と答えるが、「それでもピンクテープの樹木は全部切るのか」と言われ、 市民はピンクテープの全樹木が切られるのではという不安に駆られている と感じる。
田中会長	現状では、1本1本の街路樹をどうするのか市民としてわからない点とコスト面のほか、道路の安全安心を含めた課題にも対応していく必要がある。
内田委員	警察としては信号機や標識がドライバーや歩行者から見えなくなるのは非常に困る。熊本市役所前の交差点内には以前は樹木があったが、自転車事故の発生に伴い伐採していただいた経緯がある。景観との関係もあるが、 交通安全上、課題のある樹木については熊本市に伐採または剪定をお願いしなければならない と考えている。

松本委員	先日、鶴屋の反対側のケヤキの倒木が報じられた。熊本市がケヤキを植えたのは、東京の表参道や仙台の定禅寺通りなどの景観がビジュアル的に素晴らしいため、熊本でもこういった都市景観を目指したことが発端だったと思う。ただ、表参道や定禅寺通りは歩道幅員が 8m、植樹柵幅員が 2.5mほどもあり、広々とした立地条件でケヤキという非常に大きくなる街路樹を支えている。しかし、熊本の通町では歩道幅員が 2m強と極端に狭いところに樹木の上だけを見て、根底の周りの空間を考えずに植栽したため、今回のような倒木の被害もある程度の頻度で起き、これからもっと頻度は多くなると思う。このため、 根本的に正しい場所に正しい樹種を適正に植える、適正にコントロールしていく、コントロールできない箇所は早めに樹種を転換するなど、将来を見据えた計画として考えていくべき である。
田中会長	ケヤキも枝ぶりは都市的で洗練はされているが、熊本には熊本の良い樹木があり、そうしたものも考えていく必要がある。また、道路空間として適切に歩道環境は取れているかなども含めて再編していく必要があると思う。
沼田委員	国土交通省に対しては、道路沿いの樹木が密集して植栽された箇所で、ムクドリなどの鳥糞害や落葉に関する相談が多く、 道路空間利用の観点から利用者の迷惑にならないような道路管理も必要 と考えている。
田中会長	市民からは様々な声の大きさがあり、どうい声に対応していくかを考える必要がある。個人的には一つの声も取り残したくなく、真摯に考えれば何とかなると思っている。また、 今後は熊本市が積極的にSDGs やグリーンインフラの考え方を取り入れた街路樹管理について勉強していくべき と思う。
松本委員	アメリカ・ニューヨーク市では 4 つの視点(1 年間の射水量・エネルギー量の削減率・大気汚染物質の除去量・二酸化炭素の吸収量)に基づいて経済的価値を算出し(年間の総経済的価値が 117 億 5300 万円)、これに対応した街路樹管理を行っている。熊本市はニューヨークの約 1/10 の人口ではあるが、少なくとも年間数億円程の資産的価値があると感じている。今後は樹木、特に 街路樹の経済的価値をどのように見ていくかということも非常に大切な観点の一つ だろうと思う。
田中会長	熊本は夏が暑いため、木陰があるというだけでも相当効果があり、歩行道や街路空間を良い所にするために街路樹は欠かせないものだと思う。松本委員から教えていただいたのは代表的な 4 つの視点であるが、その他にも、昔からの歴史の中で街路樹は大事、それこそ 夏目漱石は熊本を森の都と言ったという歴史など、そうした文化面も含めて適切な将来計画を作っていくことが必要 である。また、 こうした取り組みを市民や家庭、教育レベルなど、どのように行うのかも考えていく必要 がある。
緒方委員	街路樹管理に関するタイムマネジメントを明確にする必要がある 。例えば、ピンクテープが付けられた街路樹伐採を長い期間をかけて行なうならばそこまで影響は少ないと思うが、短い期間で行なうならば影響があると感じる。
福西委員	補植や新しい樹種への転換についても、2~30 年後には伐採や剪定問題で困ることがないようにしてほしい と思う。

田中会長	今後はビジョンの検討や、課題解決に向かう過程に次世代を担う子供たちにも参画してもらうことが必要だと思う。
事務局	7. 議事 ⑤今後の進め方 【資料 12～13 ページに基づき説明】
田中会長	課題に対してどう対応していくのか、行政や委員、専門家が行うこと、また、市民が担えることなどの案を議論し、例えば、水やりやイルミネーション設置など、市民との先見的なパートナーシップを結ぶなどもあっていいのではと思う。
松本委員	公民連携にあたっては、ボランティアが対象への愛着や魅力を感じるかが重要であり、公民連携に向けて取り組むのであれば、行政が本当に魅力的な場所を作ることが先ではないかと思う。
田中会長	魅力的な場所を示すのは確かに大事であり、例えば、学校との連携や教育などを通して、小さな成功事例を作っていくのは大事であると思う。
吉村副会長	来年、都市緑化フェアが熊本で開催されるが、その一環として花畑公園や辛島公園の前、周辺の街路樹付近に多年草の苗を小さい子供や市民の方々と一緒に植えた。小さい場所ではあるが、魅力的な場所として市民の方々に少しでも興味をもっていただければ、将来的に少しずつは変わっていくと思っている。
米村委員	沿線住民の方々は、やはり高齢化して落ち葉拾いが苦になるというご意見の方もいれば、逆にそれくらい苦にならないという方もおられる。安全性や景観も含めて熊本に合った街路樹管理の在り方を考える必要がある。
田中会長	SDGs は多様性が大事であり、パブリックコメントもやってもいいと思うし、できる限り顔の見える議論や対話を継続していきたいと思う。
緒方委員	資料にある「強剪定」の定義を明示する必要がある。
田中会長	「強剪定」が悪者のようにになっているが、強剪定は強剪定する理由があって然るべきだと思うため、「理想的な樹形に向けた取り組みを推進する」だけの記載で十分伝わるのではないか。今後、これらの共通理解も求めていく必要がある。
沼田委員	資料 13 ページの中で「市民説明、意見聴取」という言葉が出てくるが、早めに今の市民の方々がもたれているイメージと実状が異なる旨をお知らせするタイミングがあったほうが良く、そうであれば、次回第 5 回委員会の後でお示しするタイミングを設けた方がいいと思う。
事務局	次回委員会までに検討して回答する。

第 4 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 議事録

日 時	令和 3 年(2021 年)8 月 30 日 14 時 00 分～15 時 30 分
場 所	桜の馬場城彩苑 多目的交流施設
出席委員	別紙のとおり
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員紹介 ・欠席委員(柴田委員) 5. 会長選任 6. 会長挨拶 7. 議事 ①副会長選任
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 7. 議事 ②現計画の概要 ③計画中断に至る経緯 【資料 1～10 ページに基づき説明】
田中会長	<p>要領よく説明いただき大変分かりやすかったです。今話にありましたが、去年、令和 2 年はこういう場所がほとんどなかったんです。書面会議もあり、3 月の時もそもそもなかなか議論できなかったですが、始まってから動けなくて、大学は学生さんも来なくて、そうこうしているうちに、去年の 7 月の豪雨災害となり、委員会を開けなければ動けないのかという忸怩たる思いがありますが、やりたくても出来なかったのはあると思います。</p> <p>令和 3 年になり、ピンクのテープが巻かれたことによって可視化されたことが大きいのかと思いますが、それをきっかけに皆さんからご意見をいただけているのが現状です。今までの経緯について、コメントはありますか。</p>
松本委員	<p>ピンクのテープが発端でいろんな市民の方からのご意見があったのは分かりますが、私は水前寺の近くに住んでまして、周りのイチヨウ並木はほとんど、今、著しく連続性が損なわれるようなことはしないとおっしゃったが、著しく連続性が損なわれるようにピンクのテープが付けられているが、それは樹木に欠陥だとか支障だとか特段の問題があったから、あのようなピンクのテープの状況になってるんでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局から回答させていただきます。ピンクのテープを巻いた理由等のご質問と思いますが、令和 2 年度に課題があると判断した木の対応工事のための設計を実施して、先ほど説明しました対応基準が、例えば伐採であったり更新であったり、そういった対応基準に基づいて課題があると判断した木を一度お示しさせていただいて、その後、沿線の自治会であったり市民の方々であったり、意見を伺う予定としていたところでございます。</p>
田中会長	<p>巻いているからといって切るわけではないし、そもそもなぜ巻いたのかが分かりにくいので、もう一度この後見直すということでもいいですか。</p>

	<p>松本先生のご指摘も最もなので、要はいきなり巻かれてしまっているの、よく分からないので、なぜ巻いたのか、巻いたから切るわけではなくて、場合によっては何本か切るということかもしれませんけど、そういったことを含めて丁寧に議論し直しましょうというのが、先ほど大西市長が冒頭で説明していただきました。連続的に大きな景観の変化が変わるようなことはしませんということは、そういうことは止めましたということで、今から皆で考えていきましょうということです。</p>
事務局	<p>そういったところも含めて、これからも市民の皆様方や、委員会の皆様と丁寧に議論をしていきたいと考えています。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。</p>
沼田委員	<p>今の件に関連してですが、そもそも、今回ピンクのテープが張られた部分については、課題のある樹木に対して張りましたということだと思うんですが、具体的に伐採を目的としたもの以外でどういった課題があるということで巻かれていたのかを明確にしなければ、先ほどからお話があるように、市民の方がいきなりピンクのリボンが巻かれて全部切られるんだという認識にどうしてもなられたのだらうと思いますので。その辺のところをしっかり明確にしてお伝えていくことが必要ではないかと思います。</p> <p>この場でなくて次回になるのかもしれませんが、教えていただければと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。後ほどの議論の中で示されると思いますので、そのことが大事だよと教えていただきました。そのほかいかがでしょうか。</p> <p>確認のために、是非、副会長の方から去年一年間、造園業協会さんはどんな感じだったのか、僕たちもなかなか知らないの、ちょっと教えていただいてもいいですか。</p>
吉村副会長	<p>熊本市の協会会員が、総合的に言いますと90%以上の会員が何らかの形で入札で取られて街路樹の剪定関係を今やってらっしゃいます。</p> <p>以前に開会されていた時の剪定の仕方、街路樹、今回また始まりましたけれども、その前あたりから、少しその辺の意識が会員の方も変わりまして、今、松本さんが言われました水前寺電車通りのこの辺の剪定のやり方も見てみますと、きれいな枝抜き剪定になっております。ただ注意していかないと、いけないのは、毎年する費用もかかりますし、労力もかかりますので財政的な面が非常に懸念される場所ではありますが、そういうなかでどのようにしてこの景観だとかいかに剪定していくかというのはよく考えないとまた同じことの繰り返しになってしまうので、それをしっかり意識してやるようにはなっただと思います。ただ、これは我々の協会だけではなくて、市民の方、それと仕事を発注されている熊本市の方とうまく話をしっかり詰めてやっていかないと、例えばよく昔、前に聞いた話だと街路樹高木は3年に1回しか切らないから、その剪定期期を見計らって丸坊主というか、木炭にするような剪定の仕方を、以前は、我々はあまり良い気持ちはしなかったですが、そういう要望があったということも聞いているので、そういうことがこれから無いようにお互いにその辺をよく話し合っやっていかないと街並みが壊れてしまうことに</p>

	<p>なってしまうので、これは私たちの協会だけではなくて、やはり周りに住まわられている市民の方、仕事を発注されている熊本市の方、ここの打合せが非常に大事ではないかと思えます。</p>
田中会長	<p>どうもありがとうございます。とても大事なことというか、僕たちが知らない間に管理はされるわけです。それは肅々と造園業の皆さんが管理してくださっているわけで、まさにエッセンシャルワーカーというか、ほっといたら街路樹は伸びて危険な状態になるわけで、剪定しなくてはいけない、でも剪定するためにはお金がかかるから、それをちゃんとシステムとして持続可能な形にしないではいけない。今切ったからといって戻すわけではないし、ずっとほっといたら危なくなるので、適正な管理というのが、先ほど沼田さんからもお話がありました。それを皆で出来ること出来ないこと、やった方がいいこと考えながらやっていくのがこの委員会だと思いますので、今までの経緯は皆さん理解していただいたと思いますので、本題に入りたいと思います。議事 4 番目です、現状の課題ということでご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>7. 議事 ④現状の課題 【資料 11 ページに基づき説明】</p>
田中会長	<p>どうもありがとうございます。先ほどご指摘いただいたピンクのリボンが巻かれたことの意味を皆で考えていこうというのが、ご説明いただいた街路樹 1 本ごとにおける対応を議論していないということで、一応専門的な内容は 2 年前に教えていただきましたけど、それをずっと見ている松本先生とか吉村さんはお仕事なので常に気を配っておられると思いますけど、僕らは普通の市民なので、なかなかそこまで見れていない中で、それをこれから議論していきましょうということが課題ですけど、まず福西さんの方から公募委員ですので、ざっくばらんに今不安に思っていることとか、どうなのかなというのを、2 年前にも一生懸命お話をさせていただいたので、それも踏まえて教えてもらおうと思います。福西さんよろしくをお願いします。</p>
福西委員	<p>やはり皆、通町の電車通りのところはすごく景観として大好きなんだということが今回よく分かったんですけども、1 本ずつ丁寧な剪定というのはすごく大事だと思いますが、そうすると経費ってすごく掛かってくると思う。その時に限られた予算の中で市全体として結局どれぐらいのことが出来るのかとか、通町を 1 本ずつ丁寧にした時に足りなくなった費用を市全体としての整備はどうなるのかとか、全部予算をすごく掛けられて全部出来たらいいのでしょうがそれは難しいと思うので、限られた予算でどれだけのことが出来るのか、他の市民の方も知りたいと思っているのではないかと思ったのが一つと、道路保全課ではないですけど、公園課の方で来年の春に緑化フェアをされるとと思いますが、その緑化フェアの概要を見ていると、結局大きな木は植えないで一年草、二年草の草花とか、あまり丈の高くない木をメインとした緑化というのを、今後の熊本の街路樹も含めて、緑の政策の根本にされていきたいのか、大きな木もどんどんしていくのか、どちら側に熊本市は考えているの</p>

	かみんな気になるのではないかと思います。その 2 点です。
田中会長	ありがとうございます。僕も友達から委員長だろとよく言われるんですけど、福西さん委員に関わってたじゃないですか、友達の間で話題になったりしますか。
福西委員	やはりあんなに木を切っちゃうのとか、そんなさみしいことを皆でOKと言ったのとか言われて、そうじゃないんだけど、道路が安全ではなかったり、木が倒れてきたら危ないことがあるからそこを考えた上なんだと言うんですけど、それでもピンクのテープの木を全部切っちゃうということになっていて、全部が全部そうではないと思うと話していたので、丸裸に全部木を切られちゃうのではないかと不安がすごくあると感じます。
田中会長	ありがとうございます。すごくリアルな雰囲気、ここの会場の人みんなそう思っていると思いますが、いかにこの雰囲気が熊本全体に伝わってないかというのがよく分かったので、そういうことをちゃんとやっていきたいと思いますというのがすごく大事だと思う。さっきプロが見ても、松本先生が見ても、バツとピンクのテープがあると不安になるのは皆も不安になると思うので、あのピンクのテープをどうするかを考えていて、僕個人的にはせっかく注目が集まっているからあのままにしておいたのがいいのではないかと思っている。あれで理解は深まったと思うので。必要なければ皆でさげていきたいと思いますし、やってもいいのかと思いますし、見てやはり危ない、洞が出来るとあれば直ぐに切らなきゃいけないとかいうのはすごく大事なので、僕たちが周りから見られているのを説明するためにも、もう少しあのままにしておくかなと思いますけども。現状の議論で、福西さんに言ってもらったように、1 本 1 本どうするのかよく分からないという話とお金の面も含めて将来像として 10 年後、20 年後、資産としてやっていく時に、案外、防災や災害の件が喉元過ぎればなんですけども、3 年前でしたか風台風が行った時に何本か倒木して、僕は菊池のこともやっていますけど、菊池では調べてもすぐに街路樹が倒れてやはり危ないです。災害とかそういうことを契機に避難路の確認、道路沿いのみなさんなので道路が大事、警察ももちろんそうですけど、安心安全を含めて課題はたくさんありますが、これについて皆さんご意見頂こうかと思います。口火を内田さんから切っていただけてよろしいですか。
内田委員	新参者で口火を切らせていただきます。今、福西さんのお話がありましたが、警察としましては信号機ですとか、標識というのがドライバーの皆さんや歩行者の皆さんから見えなくなるのは非常に困るということです。ただ景観との関係もありまして、どこまで木を切っていいかというのはこれから議論が必要なんでしょうけど。交通事故を一つでも減らすためには必要な箇所については伐採または剪定などをお願いしなければならないと考えております。
田中会長	ありがとうございます。是非、内田さんからこの 2 年間で変わったこととか、警察として、もちろん前から信号が見づらいとかあったと思いますが、コロナになって聞いたところによると移動が減っているので交通事故が減っていると聞いているんですけど、街路樹に関する事で警察対応として変わ

	ったことはありますか。
内田委員	<p>コロナ禍にありまして交通の流れが少し減ったということで、確かに昨年の本県の交通死亡事故は統計開始以来最少の数を記録しているんですけど、確かにコロナによる交通量の減少が事故の減少にも結び付いているとは考えられております。ここでどこまで 2 年前と変わったかというとはっきりとは言えません。うちの方でも、例えば一番身近なところでは、皆様が今日電車通りをこの会場まで来られたとします。市役所の前を左折して来るわけですけども、あそこには以前交差点内に樹木があったんですね。これが自転車の、高校生とか自転車ですらどうしても来るものですから、その自転車が見えずにドライバーから、事故にあった、またはあいそうになったということで、市役所をお願いして伐採していただいた箇所がございます。樹木があるためにドライバーからの視認性が悪くてお願いしなければならない。そういうところはございますので、2 年前と比較にはなりませんけれども、いろんな所、安全な場所、危険な場所ございますのでそれぞれ判断していけばと思っています。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。とても大切なヒントを、後で国交省さんからお話があるかもしれませんが、この 2 年間で、コロナで外の空間が大事だねという話はだいぶ増えて、ここに新しいオーバブルの精神もありますし、外部空間の重要性は格段に上がっているんですね、2 年前に比べたら。やはり、樹陰が大事だとか、その分外でお弁当を食べている人とかも増えているので、道路空間の混雑というのはひょっとしたら歩行者と自転車の規模とか、自転車も今はエコロジカルな移動だということで利用者も増えてますし、最近みんな良い自転車に乗ってたりするじゃないですか。その意味で歩行空間と思っていた所が実は自転車のための空間だったりとか、今も樹木の話にありましたけれども、2 年間で、コロナ禍で環境も変わってますので、いろいろと新しく議論していくこととか出てくるかなと思います。</p> <p>どうもありがとうございます。他いかがでしょうか、ご意見。</p>
松本委員	<p>今、倒木の危険だとかそういった話が出てきたんですけど、その原因について冷静に考えなければいけないと思います。今年の 6 月でしたか、水道町というか鶴屋の前の反対側のケヤキの木が倒れて、運よく交通標識に引っかかったので、最後まで倒木しなかったということがありました。ここの資料の 8 番の図面にも、通町のケヤキの伐採する予定の平面図があるんですけど、ケヤキの木というのは非常に急速に大きくなる、巨大化する樹木です。ケヤキとかイチチョウだとかクスノキ、これらの特に代表的な 3 つの樹種が熊本県に多いという特色があります。これは熊本県だけじゃないのかな、全国的にこれらの樹木をバブルの頃から、バブルの崩壊後、建設業だとか不動産業を下支えするという目的で公共事業が連続してかなり発注されて、そのあおりというかその影響で、急に大きくなる木が全国に増えた。これらを本当に今の熊本市の都市のスケール感でそれを安全に保てるかどうかということを真剣にしっかり考える必要があるかと思っています。熊本市がケヤキを植えたのも、そもそも、東京の表参道だとか仙台の定禅寺通りですとか、あの辺の景観がビジュアル的に素晴らしいので、ぜひ熊本の街でもこういった都市景観をというこ</p>

	<p>とが発端だったと思います。ただ、表参道だとか定禅寺通りは歩道の幅員がだいたい8メートルくらいあるんですね。植栽樹の幅員で2.5メートル、それでケヤキという非常に大きくなる街路樹を支えている。では、熊本の通町を考えてみたらどうでしょう。歩道の幅員で2.3メートルくらいあるのかな。極端に狭いところに樹木の上だけを見て、根底の周りの空間というのを考えずにやったものですから、今のような倒木の被害というのもある程度の頻度で起きてくるし、これからもっと頻度は多くなると思います。ですので、先ほど剪定の仕方を枝抜き剪定をして経費を掛けて綺麗にやれば、緑が維持出来るんじゃないかというご意見もあろうかと思うんですけど、私は根本的に正しい場所に正しい樹種を適正に植える、適正にコントロールしていく。コントロールできないようなところであれば、早めに樹種の転換、これは市民の方のいろんなご意見を賜ることもあるかと思いますが、そういった樹種の転換についても将来を見据えた計画として考えていくべきではないかと思います。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。松本先生には樹木医としての視点から景観面、都市景観としてどういう種があって、生態系というか、九州には九州にふさわしい樹種がありますし、もちろんケヤキも枝ぶりは都市的で洗練はされているんですけど、熊本には熊本の良い樹木がありますし、そういうのも考えていけないといけないということと、後は道路空間、業者さんの専門ですけども、適切に歩道環境は取れているのか、先ほどの自転車道をどうするのかということも含めて再編していく必要があると思います。それに加えてコロナ禍で屋外をちゃんと使っていただくというところで、メリハリの効いた、都心は都心、郊外は郊外という道路の作り方もしていかなければならないと思うので、そういったことも考えていく必要があるというご意見かと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。現状の課題についてこんなことがまだ問題だとか。沼田さんお願いします。</p>
沼田委員	<p>実際、私たちにご相談がある中でも結構道路沿いの樹木が密集して植わっているところに、ムクドリとか鳥の糞害というのが市民の方から寄せられるということが多々あります。そういった部分を考慮しつつ、落葉樹になった場合に仮に民地側へ葉が落ちてしまったりとか、清掃にかなりの周囲の方々のご苦勞もありますし、私どもの対応等もありますので、道路空間利用という観点から言うと、利用者の方にご迷惑が掛からないように対応していくことも考えていく必要が一方ではあるかと考えています。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。どちらかという切る理由のほうですか。僕もコロナの2回目を打ったんですけど、熱は出ましたけど倒れるほどではなかった。昨日SNSとか見ていると丸1日寝込んだとか、割とそういう声の方がたくさん聞こえてきて、皆そうなのかと思ったら自身はそうでもなかった。声の大きさというのは、どういう声に対応していくのかということもあると思うんですけど、経費の話もありましたけども、僕自身は一つも取り残したくないと思うんです。ちゃんと考えたら何とかなるんじゃないかと思っていて、もちろん切る理由あると思うんですけど。安心安全、今の話だと鳥の糞害と騒音の問題もありますよね。それと落葉して滑ったりもするのでそれも危ないという</p>

	<p>話と、後は美観上の問題もあるかと思えます。国交省さんと熊本県さんと熊本市さんと連携していく必要もあるかと思うので、その辺も含めて。</p> <p>ちょっと教えていただきたいんですけど、グリーンインフラみたいな話ってあると思うんですけど、街路樹だけじゃなくて水も含めて、水循環とかですね、そういうことも含めた透水性舗装だったりとか、街路樹を植えることで環境が良くなっていくみたいな考え方というのは、今、国の方ではどういう風に、グリーンインフラと街路樹とかあまり議論はされてはいない。</p>
沼田委員	<p>道路整備という観点でいきますと、あまりその議論はなかなか出てきていない。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。とりあえず熊本市は地下水が大事なので、地下浸透とか考えた時に、裸地が、街路樹が植わっているところくらいしか、街路樹が植わっているところも植栽樹だけになっていたりしますが、裸地がどれだけあるかというのが僕は大事だと思っていて。河川空間は堤防とかは締固めくらいなので雨水は浸透するかなと思うんですけど。今後は積極的に熊本市がSDGs を推進していくために街路樹にグリーンインフラのことをとか勉強していくべきかと思えます。それは松本先生に聞かなきゃいけないかと思うんですけど、どうでしょう、グリーンインフラの考え方は。</p>
松本委員	<p>手元に資料を持ってきていまして、これは外国の、アメリカのニューヨークの話ですが、ニューヨークシティストリートマップという緑の効能のインターネットのサイトであげているのがあったので見てきたんですけども、これは経済的価値、ニューヨーク市の樹木の経済的価値を表したものです。4つの経済的価値がある、代表的なものだけをつまんだと思うんですけど、ひとつは1年間の射水量、射水量というのは直接下水道や中小の河川に入るものではなくて、樹木の葉から幹を伝って流れて根に入るもの、先ほど先生がおっしゃった水の循環ですよ、そういう観点。それから、1年間のエネルギー量の削減率、クーラーのエネルギーを使わなかったりいろんなものをセーブできたりする、そういったものが2つ目。それから大気汚染の物質の除去量。それから4つ目は二酸化炭素の吸収量。この4つの観点で出ていました。1年間の射水量は11億4900万円、それからエネルギー量の削減率が90億1700万円、それから1年間の大気汚染物質の除去量が7億1000万円、それから1年間の二酸化炭素の吸収量が4億3700万円、年間の総経済的価値がニューヨークで117億5300万円、今ではもう少し高くなっていると思うんですけど。単純比較するのはおかしいかもしれませんが、860万くらいの人口のニューヨーク市と70万足らず、70万くらいの熊本市、10分の1、経済価値としても経済力としてはもっと20分の1、それ以上になるのかもしれませんが。熊本市の緑だって数億円の、年間の経済の実際貨幣に換算しての資産的価値があると私はこれを見ていて感じました。だから策定委員会の資料で緑は潤いだよとか安らぎのあるとか書かれていますけど、それ以外に私が重要なのは自分たちの経済価値、せっかく税金を使って植えているものですから、その経済的価値をどういう風に樹木、特に街路樹について見ていくかということも非常に大切な観点の一つだろうと思えます。</p>

田中会長	<p>ありがとうございます。松本先生から大事なことを教えていただいたと思います。関東とりあえず内閣とかですけど、ノーカーボンとかカーボンニュートラルという話が、熊本にいとそんなに耳にしませんけど、やはり先ほど言っていたいただいた経済的話しだったり、環境負荷、CO2にしても、2番目のエネルギーの削減率ですか、熊本は夏が暑いので日影があるというだけでも相当効果があるし、先ほどの歩行道とか街路空間を豊かにするためには街路樹は欠かせないものだと思うんですね。ただそれがなるべくお金を掛けずと言ったら言葉が悪いですが、持続可能な形であるというのは熊本市として目指すべき姿だと思うので、そういう勉強もちゃんとやっていかないといけないと思います。現状の課題としては、大きくは適切な再生計画、将来的な都市像で1本1本から全体までちゃんと考えましょうと。今、言っていたのは代表的な4つの視点でしたけれども、それ以外にもやはり昔からの歴史の中で街路樹は大事であるとか、それこそ夏目漱石は森の都と言ったとか、そういった歴史であるとか、そういう文化面も含めて適切な将来計画を作っていくということと、それを誰がやっていくのかということ。先ほど福西さんから心配していただいたみたいに、予算がある限られた中で持続可能な形を模索していく中で、或いは市民が担っていくということも必要だと思いますし、皆で考えていくということ。もちろんパブリックコメントとかもやっていく必要があると思いますし、草の根運動みたいなこともやっていく必要があるでしょう。別にメディアに載るからやるとかではなくて、家庭でできることとか教育でやっていくことも必要だと思います。そういったことを大きく2つやっていこうかと思います。現状の課題としては大きく2つありますという認識で、皆様認めていただいたということでもよろしいでしょうか。いえいえ、第3のというのがあればお願いします。</p>
緒方委員	<p>今までいろいろとお話を聞かせていただいたのですが、ひとつ私が、赤いテープの件で課題のある木に巻いているということなんですけども、私はあの木を何年かかって切っていくのだろう、何年かかって考えていた時点にするのだろうと分からなかったのが、タイムマネジメントを入れていただければ。例えば、20～30年かけてあれだけの木を切ったとして、そんなに打撃はないと思うし、文化的な側面もあまりまで阻害することはないだろうと思います。ただ2～3年で切るなら大打撃だと感じますので、タイムマネジメントが非常に重要だと感じています。以上でございます。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。これもすごく大事なことで、最近、効率性とか短期のことについていろいろ話す方はおられるんですけど、20年先とか長期的な、持続可能性はそこがキーになると思うので、是非、タイムマネジメントの観点は入れていただけるように思います。</p> <p>福西さんはどうですか。大きなところでは2つということ。</p>
福西委員	<p>やはり補植するにも、新しい樹種に替えるにも育ってきた後、2～30年後には切らなきゃいけないとか剪定で皆が困るようなことが起きないようにしてほしいと思います。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。次の議論になるのかな、僕自身はビジョンを、今まで</p>

	<p>は行政が作ったビジョンを示してそれにという話だったのが、一緒に作っていく必要があるではないかな。それに子供たちはすごく大事だと思っていて、彼らが 20 年後成人した時に、熊本市にこういう街路樹があって良かったねと思ってもらうのはすごく大事な視点だと思うので、是非、この課題 2 つを課題解決していく姿に、大人が範を示すが大事だと思いますし、子供たちと一緒にやっていくのが必要かなと思っているので、今後の進め方でその議論が出来ればと思っています。</p> <p>⑤次のページの説明に移りたいと思います。事務局よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>7. 議事</p> <p>⑤今後の進め方</p> <p>【資料 12～13 ページに基づき説明】</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。今後どうやっていくかというご説明だったと思いますが、13 ページは最後おっしゃったみたいに両方大事だと、行政の皆さんがこれまでやってきたことを粛々と進めていくことも大事なんだけど、それと並行して、やはり市民の方から見たらピンクのテープを巻かれたら全部一緒に見えてしまう、全部切るとしてしまうというところについていろいろ勉強したりだとか、後は先ほど吉村副会長から言っていましたけども、街路樹の剪定に実際に関わっている方も意識が変わってきているのだと教えていただいて、強剪定は元々やりたくなかったものを仕方なくやっていたのを認知されてきたということ、プラスのことだと思うので、そういうことを皆で勉強していくとか、両方やらないといけないと思うので、両方やっっていくというのがひとつ教えていただいたことと、12 ページの方で先ほどの課題に対してそれぞれどう対応をしていくのか、行政がやることと僕たち委員がやることと、先生たち専門家がやることももちろんあると思いますけど、市民が担える部分、資料で言っていた 6 ページ、2 年前もしてはいけないこと、してもいいこと、したほうがいいことをだいがんみんな議論して、これはいいんじゃないのとか、この辺の見直しとか、そういったこともあるかと思っています。</p> <p>街の人と話していると、もっと街路樹を自分たちで管理していいのではないかとやっている、どこと言われるとちょっとあれですけど、何件か知っているんですよね。そういう風にマイ街路樹という言い方はおかしいかもしれませんが、基本的に街路樹は道路構造物付帯施設ですので行政が管理するものですけど、水やりくらいはいいんじゃないのとか、クリスマスにイルミネーションするくらいなら許してほしいとか、そういうのは有ってもいいのかなと思います。だから、そういうのをちゃんとパートナーシップを結ぶとか、そういう所はあってもいいのかな、先見的に。それは僕のアイデアなので、皆さんからも今後こういうやり方をしたらどうかというのがあれば教えていただきたいと思っています。</p>
松本委員	<p>公民連携、ボランティアのことと私は思っているんですけど、私も実際ボランティアに行ったりします。それはどこに行くかと言うと、江津湖の広木公園で</p>

	<p>水の流れが悪くなって水質が悪化するのでみんなでヨシ刈りをしましょうだとか、上江津の方で芭蕉苑という所があって芭蕉が茂りすぎて、治安というか安全安心には適さないような場所になってきているのでそこを間引きしましょうだとかいうことで行ったりします。そもそも私は江津湖に小さい時から遊びに行ったりして、ある程度の愛着があるんですね。ボランティアに行こう、行ってみよう、やってみようというのはそこが魅力があると自分が感じる場所だから行っていると思うんです。ただ、街路樹に公民連携とか言われても、低木剪定、除草、暑い中にそんなことを誰がする、すいません言葉は悪いですけども、誰がするのかなと私は思いました。もし、一般の方を街路樹にボランティアとして入れたいのであれば、そこが本当に魅力的な場所を行政がちゃんと作ってあげて、こんな素敵なお場所だからみんなやってみませんか、そっちの方が先ではないでしょうか。私は順番が逆なような気がします。これは本当に穿った見方で申し訳ないんですけども、ピンクのテープを張って伐採をする、将来の展望として平面図をお見せする、それも分かるんです。伐採すればどんどん草が生えてきます。労働力が足りなくなる、その補填として市民の方々にという風に少しでも考えられているのであれば、私はそれは失敗すると思います。やはり魅力的な場所を最初に作ってあげなければ、なかなかボランティアの方は来られません。国土交通省さんですか、道守花壇という取り組みがありましたけども、それも今はかなり少なくなって、高齢化のためになかなか自分の店の前の道でも草取りすらままならないということがあったりする。これは言葉としてはシビックプライドだとか連携だとか綺麗なんですけど、実状を考えると少し私は暗い気持ちになりました。</p>
田中会長	<p>ありがとうございます。順番が逆だという話はそうかなと僕も思いますし、ただ僕はよそ者だからかもしれませんけど、さっきの広木公園もそうだし、熊本には魅力的な緑が結構あると思っていて。そういう所にはちゃんと好きな方がおられて結構マニアックなんですけど、そういうのはあるのかなと思って。もうひとつは課題がある所ですね、僕の中だとヨシ刈りとかもそうですけど、結構竹林だとか竹の被害があって、労働力も不足してるから、学校との連携とかあるかなと思って。街路樹のある程度面的な、学園と言われるようなもの、高校とか小学校でもいいのかもしれませんが、学校の側の街路樹については子供さんたちが観察日記を付けたりだとか、そういう教育があってもいいのかなと思います。松本先生がおっしゃるように、確かに魅力的な場所ですね、それを示すのは確かに大事なので、絵空事ではなくて小さな成功事例でいいので作っていくのは大事かなと思いました。</p> <p>松本先生ありがとうございます。</p>
吉村委員	<p>先ほど福西さんからもお話があったみたいに、来年、都市緑化フェアが熊本で開催されるんですけども、その一環で花畑公園の前や辛島公園の前、その辺の街路樹の所にかなり多年草の苗を植えて、一年中緑だったり、枯れる植物もあるんですけど、総合的に見て多年草の植物を楽しもうということで、今まであった低木というイメージではなくて、花が咲いたり、四季のイメージを味わえるようなひとつの楽しみがあるような魅力的な花壇だと私は思うので</p>

	<p>すけど、そういう所に、街路樹だと剪定をしたり草取りをしたり大変という言葉もありましたけども、そういう中で小さい多年草の球根だとかそういうのを植えますので、小さい子供さんたちから種を蒔いたりする楽しさ、その辺を市民の方たちに少しでも興味を抱いていただいて、そういう魅力的な場所、小さい場所ですけども、そういうものを一つの楽しみとして市民の方にやっていただければ、将来的に少しずつは変わっていくかなと思っています。</p>
<p>田中会長</p>	<p>ありがとうございます。そういう動きも起こっているんだよということです。僕も球根を蒔きに行ったので存じ上げているんですけど。小さなことから出来ることで、多世代でということ、行政の方は行政計画に従ってやっていくというのは勿論大事なことでそれはあるんですけど、それ以外をさっき松本先生がおっしゃったみたいに、そういう置き換えではなくて、市民が自由意思で好きだからやるということに認めていい社会になりつつあるので。それは阪神淡路大地震からボランティア元年、1995年から始まっていますが、それ以前からやってる方もおられたりだとか、そういう中で公共空間に対するコミットがだいぶ変わってきているので、そういうことも含めて新しい価値を作っていけるような街路樹をどうやって作っていくのかをこれから議論していくのだと思います。</p> <p>なかなか立場上ご意見があれかもしれませんが、是非米村さんもこれらについては是非、ご意見でいいと思うので、立場上言わなきゃいけないはあるかと思うんですけど、一個人としてご意見いただければと思います。</p>
<p>米村委員</p>	<p>いろいろなご意見をいただいて、3年ほど前まで東部土木センターという所で、今の立場より現場に近い所で所長をしておりまして、電車通り或いは第二空港線の街路樹については、どちらかと言えば苦情を受ける立場でありました。沿線側の住民の方というのはやはり高齢化して落ち葉拾いが苦になるかなというご意見の方もいらっしゃいますし、それくらい苦にならないという方もいらっしゃいます。ただ多いのは切ってくれという声はどうしても多かったような気がしております。あと歩行区間という観点で見ますと、特に第二空港線、新しい市民病院が出来ましたけども、あそこのクスノキは樹形を切って、歩道をいじめている状況でございましたので、たまに雨の日に傘をさして自衛隊の前から東部土木センターまで歩くのですけども、お互い傘をさしたまますれ違えないという状況でもありました。そういう場面に遭遇しますと、やはり街路樹の在り方とはどうだろうと自分なりにちょっと疑問に思ったところがございます。</p> <p>先ほど松本先生がおっしゃいました様に、やはり熊本に合った街路樹は何だろうというのは、傘をさして歩く時など特に思っております。行き過ぎると道路空間に合わないことが、弊害が生じやすいなと実感としてありまして。ただ電車通りの話に戻しますと、秋のイチヨウの葉が色づくあの時期は葉とか、銀杏は別なんですけど、非常に自分自身は綺麗だなという印象は確かに持っています。早い時期から剪定のやり方ですとか、樹種の選び方もそうだったんでしょうけど、専門の方のご意見をもっと早めに受け入れながら、街路樹を育てていけば苦情の意見一辺倒にはならなかったのではないかなというのが今の</p>

	正直な気持ちでございます。とりとめのない話になりましたが、以上でございます。
田中会長	ありがとうございます。今日はお休みされていますけども、柴田先生もやはり一人一人の体験が大事だ、いつも僕ら言っているんですけども、そういうことも含めて総体として、総体をどこまで考えるかなんですけども。熊本市も広いですから、中心部から車の方がどっちかというと通るでしょという所もあるので、メリハリをついたことを考えたなくてはいけないこともあるので。そういうこれからどう考えて行く中で、科学的な根拠を示していくことももちろん大事なんですけども、それと同時にビジョンであったり、行動指針について議論していく中で、ここは新しい、新たな視点と書いてありますけど、僕らはまだ持ちえない視点というのも、2年前ならコロナなんか本当に視点はなかった、まさかこんなことになるとは思っていなかったのも、新しい視点、新たな視点と書いてありますけども、これについて何か、こういうものが足りていませんというものがありますか。今僕らが持っていないくても、ひょっとしたらこの1年、半年の間に出るかもしれませんし、市役所でも他部課とかで聞いていただいて、こんな視点があるよというのがあってもいいのかなと思います。SDGsで大事なものは多様性でして、物を決めつけないというか、こう思うんだけどどう思うという態度が大事だと思うので、広くご意見頂ければ、そういった意味でパブリックコメントもやってもいいかなと思うんですけども、やはり、ちゃんと顔の見える議論をしたいので、できるだけ対話というのをやっていきたいなと思います。次の第5回はだいたいいつ頃なんですか。アイデアがあれば教えていただければ。
事務局	今後、先ほどお話ししました5回の委員会に向けていろいろな事をやっていきますので、今の考えとしては10月くらいを目途に考えさせていただいております。状況によってということもありますし、今のところ一応10月を目標に資料を作っていきたいと考えております。
田中会長	どうもありがとうございます。僕は90分以上はやりたくないんですが、最後にもし良かったらご意見、これだけはこの。
緒方委員	一点だけ事務局にお願いがあるんですけども、12ページの1.の3つ目の黒点の所に、「強剪定は原則行わないなど、理想的な樹形に向けた取り組みを推進する」とありますが、後ろの方は全くの同感ですが、強剪定は原則行わないというのは私は違和感があって、強剪定の定義、ここで言う強剪定は多分丸裸にすることだと思うんですけど、強剪定というのは、樹木と造園の専門家が二人いらっしゃるので、そこの定義をちゃんとしていただければいいなと思っておりますので、委員の意見を聞いてそこら辺の定義をしっかりといただければと思います。以上でございます。
田中会長	ありがとうございます。後ろだけでもいいかもですね、分かりやすかろうと思って悪者みたいに強剪定がなっていますが、強剪定は強剪定する理由が本当はあって然るべきだと思うので、そういった基準を、緒方さんのアドバイスだとちゃんと示してやれば理想的な樹形に向けた取り組みを推進するだけで十分伝わるといことだと思うので。その辺の理解、共通理解も今後求め

	ていまいしょうとゆうことだと思ひます。どうもありがとうござひます。他ひかがでしうか。
沼田委員	確認だけ、12 ページの 1.については重点路線に関してとゆうことだと思ひんですけど、2.については市全体に対してのものという捉え方でよろしいのでしうか。
事務局	2.に関しては最終的には全体という話になつてくるとは思ひんですが、まずは重点路線から取り組んでいければと考へてひます。重点路線以外についてもしていくという試みではありますけれども、初期段階としては重点路線から取り組んでいきたいと考へてひます。
沼田委員	13 ページの進め方の中で市民への説明、意見聴取という言葉が出てくるのが、第 6 回委員会の後にはしか出てこないと思ひんですけど、先ずは重点路線をとゆうことでいくと、先ほどのリボンをそのままにしておくかどうするかという議論もあろうかと思ひんですが、早めに今の市民の方のもたれてひるイメージを違ひんですよとゆうことをお知らせするタイミングがあつたほうがいいんじやないかと思ひので、それであれば次回委員会の後だとか、そういったところでは何かお伺ひするなり、お示しするタイミングを設けた方がいいのかなと感じたところでは。次回委員会の中でご説明していただければ結構かと思ひます。
事務局	今のご意見を踏まえまして、次回委員会までに検討して回答したいと思ひます。ありがとうござひました。
田中会長	みなさん建設的なご意見どうもありがとうござひます。メリハリをつけてやっていかないといけないとゆうことかなと思ひて、重点路線は重点路線で発してひるのでちゃんとやらなきゃいけない。市全体でいろんな所でいろんな取り組みをしなくてはいけないんだけど、それについては全体像も考へなくてはいけないとゆうことと、市民は市民で自分たちでやれることは何か学んでいくとゆう、まとめると 3 本くらいあるのかなと思ひんですけども、それはちゃんと叶えましようというご指摘だと思ひます。 いかかでしょうか。もし何かあればしばらく残つてひるので言つていただければと思ひますが、皆様のご協力頂きまして、7.議事の①～⑤が全て終わりましたので一旦事務局の方に返します。どうもありがとうござひました。
事務局	田中会長ありがとうござひました。 次回の委員会につきましては、先ほど 10 月に開催を予定してひるということでは、資料の策定等を進めてまいりますので、具体的な日時決定につきましては改めて委員の皆様にご案内をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。 以上をもちまして、第 4 回熊本市街路樹再生計画策定委員会を閉会いたします。委員の皆様には長時間にわたるご審議を賜り、大変ありがとうござひました。